

一般質問(要旨)

市政について問う

★…一問一答方式



- 1 谷山きょう子(立川・生活者ネットワーク)★
2 伊藤 大輔(民進党・市民フォーラム)
3 若木 早苗(日本共産党)★
4 中町 聡(日本共産党)★
5 松本あきひろ(たちかわ自民党・安進会)
6 江口 元気(たちかわ自民党・安進会)★
7 門倉 正子(公明党)
8 稲橋ゆみ子(立川・生活者ネットワーク)★
9 太田 光久(民進党・市民フォーラム)
10 浅川 修一(日本共産党)★
11 木原 宏(たちかわ自民党・安進会)★
12 福島 正美(公明党)
13 永元須摩子(日本共産党)★
14 高口 靖彦(公明党)★
15 山本みちよ(公明党)★
16 中山ひと美(たちかわ自民党・安進会)
17 瀬 順弘(公明党)★
18 大沢 純一(公明党)★
19 上條 彰一(日本共産党)★
20 大沢 豊(緑たちかわ)★
21 松本 まき(民進党・市民フォーラム)

○議長、副議長及び監査委員は、その職務の性格上、一般質問を行っていません。

発達支援の横断的な支援体制について
関連部署の横断的連携は重要と認識
伊藤 大輔(民進党・市民フォーラム)
問 発達段階で不安を抱えている子どもたちとその家庭への支援について、相談事業の相談内容が複雑になってきているとのこと。乳幼児期は、その後の自立や学校生活に向けて社会参加の基盤を形成する時期であり、この時期に適切な支援を受けられないと、就学後に学習面や生活面で困難を抱える場合もあり、福祉と教育の連携が重要です。統括責任者等の人員体制の充実、窓口の一本化等の横断的な体制づくりについて伺います。
答 子ども未来センターでの発達相談にかかる来所相談件数は、平成25年度からの3カ年で約3倍となっており、子ども関連部署の横断的な連携は大変重要と認識しています。特に、子ども家庭支援センターと教育支援課の職員間の情報交換・共有は進んでいますが、秘匿性の高い情報などでは共有できない場合も多く、統括責任者を含めた人員体制、子ども総合相談窓口のあり方や円滑な情報連携体制について検討します。

デッキの延伸は本当に必要か
まちづくりの基盤、多世代間で負担を
谷山 きょう子(立川・生活者ネットワーク)
問 8月にオープンした新自由通路の市債は約7億4千万円で、今後のペDESTリアンデッキの整備に関して、国の交付金等を最大限に活用し整備を進めていきたいとのことですが、今後さらに延伸する箇所の整備、維持管理費等の将来に想定される費用は将来世代への負担を生じさせます。人口減少を迎えた今、人を優先させるまちづくりに転換し、莫大な費用のかかるデッキの延伸がこれ以上必要なのかを検証するべきです。
答 駅前の公共デッキ等については、ある特定の世代が負担を負うのではなく、立川のまちづくりの根幹を支えるインフラとして、多世代間にわたって負担をしていく意味で起債等の活用が図られています。ペDESTリアンデッキの延伸は、歩行者の安全確保や自動車交通の円滑化を図るために整備が予定されており、このデッキの維持管理費についても、予防保全的な修繕を実施することで、適切に管理していきたいと考えています。

ごみ分別アプリについて
他市の動向等を調査・検討する
中町 聡(日本共産党)
問 8月10日号の広報の、「プラスチックリサイクルの危機」という特集では、プラスチックごみの分別ができていないと、一部リサイクルできない状況にあるとのこと。自治体によってごみの分別方法は大きく異なり、また、特に若い世代で紙媒体を見る方は減っており、ごみ分別アプリの導入を検討するべきではないか。ツイッター等で検索すると、アプリに対する若者の評価は高く、分別や減量へつなげられるのではないかと。
答 毎年約1万人の転入者があること、また平成25年11月の戸別収集・有料化後、プラスチックごみ排出量が増え、収集したプラスチックごみの中にペットボトルなどの異物が混入し、リサイクル処理に支障が生じているおそれがあり、改めて広報で市民に周知啓発を行いました。ごみ分別アプリについては、市民への周知のツールの一つとして、他市の動向、利用状況、経費など、調査・検討を引き続き行っていきます。

玉川上水保護の視点で都市計画道路の見直しを
整備手法について都に要請を行いたい
若木 早苗(日本共産党)
問 都市計画道路の第四次優先路線に挙がっている整備路線は玉川上水を渡る計画になっていますが、新しく橋ができるのでしょうか。玉川上水の素晴らしい自然に影響が出てまで、整備する必要があるかという点で、納得がいきません。市長の公約に「水と緑の保全を大切にされた快適な生活環境の確保」とありますが、影響が出るのであれば計画を見直し、玉川上水の自然を守る計画となるよう市として都に強く要請すべきだと考えます。
答 立3・3・3号新五日市街道線と立3・1・34号中央南北線の交差点が玉川上水上に計画されており、通常は新たな橋梁が必要となります。都が都市間のネットワーク等を構成するため必要な道路として第四次事業化計画で優先整備道路と選定しているもので、市が行っている道路整備とは性質が異なるものです。しかし、道路整備と自然保護の両方にとつて、より良い整備手法となるよう都に要請していきたいと考えています。